



SOCIETY FOR INFORMATION DISPLAY

ニュースレター

日本支部

第16号

発行 元：SID日本支部

発行 責任者：苗村 省平

発行 日：2001年1月25日

新支部長挨拶

SID 日本支部長 苗村 省平（メルクジャパン）

いきなり私事で恐縮ですが、私は大学での卒業研究以来、30年余り液晶の研究開発に携わってきました。物性研究を中心に据えた、液晶材料のディスプレイ・デバイスへの応用研究、材料および材料技術の開発が主な仕事です。そしてディスプレイ・デバイスそのものの開発にも携わってきました。



S. Naemura

その過程において、SID は重要な意味を持っていました。一年間の仕事を SID のシンポジウムで発表できるような論文にまとめること。人並みの仕事ができるようになってからは、それが私の研究開発業務における一年毎のマイルストーンであったわけです。もちろん発表すること自体が目標ではありません。研究開発の成果を、SID で論文を受理してもらえるレベルに、一年毎にステップアップしていくことが目標であったのです。

会員の皆さんにとっては、SID というのはどのような意義があるのでしょうか。

皆さんが SID 日本支部に期待されているのは何なのでしょう。支部運営の舵をあげる立場に立った今、改めて考えを巡らせています。

SID 日本支部は、映像情報メディア学会の情報ディスプレイ研究会、電子情報通信学会の電子ディスプレイ研究会などの諸団体とともに、日本におけるディスプレイ・コミュニティを構成しています。コミュニティの中で SID 日本支部に備わった特徴は、いうまでもなく SID というマルチナショナルなソサエティの一員でもあるということです。

この特徴を活かした事業の代表は IDW の組織・運営でしょう。21 世紀のディスプレイ科学技術の発展に先導的な役割を果たしていくべく、今年第 8 回目となる IDW をより充実させていくことに、日本支部としても最大限の貢献をしていきたいと考えます。

会員の皆さん、ひいては日本のディスプレイ・コミュニティに對して、SID 日本支部がさらに何ができるか。下平副支部長をはじめとする役員の皆さんと一緒に考え、実行していきたいと思っています。会員の方々からも、支部活動への要望を聞かせて頂きたいと思っています。よろしくお願いします。

前支部長挨拶

前日本支部長 前田 誠（ソニー）

皆様のご協力とご支援により何とか 2 年間の任期を終えることができました。2000 年は SID 日本支部創立 25 周年の年でありました。支部会員は昨年度の 650 から今年度は 800 人を超える過去最高の会員数になりました。日本の Display 技術に対する世界の期待は高まるばかりです。IDW も年々盛んになり立派な論文が沢山投稿されるようになりました。皆様のご活躍の賜物だと言えます。各種研究会、IDW、SID シンポジウムなどを通し日本支部会員の活躍は目覚ましいものがあります。毎年 5 月のシンポジウムでの各種の受賞者も大半が日本支部会員です。



M. Maeda

日本支部では皆様の活動を少しでも有効に、そして Display 技術の発展に少しでもお役に立つべく種々の活動をしております。

設立 25 周年にあたる 2000 年では次のようなことを支部がおこないました。

* 学生会員への旅費援助制度の発足

学生諸君が国際会議へ積極的に参加できるよう少ない予算の

中でこの制度を発足させました。2000 年は西安での ASID 参加のため合計 6 名に援助をすることができました。ありがとうございます。なお補助制度の一部改定をおこない規約を明確化しました。別項をご参照ください。

* 25 周年記念ピンの作成

会員各位ならびに日本支部を援助していただいている内外の関係者に記念ピンを感謝を込めてお送りしました。

* Information Display への投稿

SID の機関紙 Information Display 誌へ支部の 25 周年記念記事を投稿しました。執筆者の一人である鈴木忠二先生をその直後に失ったのは残念なことでした。

* IDW での記念行事

神戸の IDW '00 ではバンケットに日本支部からささやかながら補助をいたしました。記念の枡を受け取られた方もいらっしやるかと思います。

今月から新しい支部役員が誕生しました。苗村新支部長を始めとして新しい支部役員の方々により日本支部がより活性化されたものになることを信じております。そして皆様方の活動がさらにグローバル化し、日本にとどまらず世界の Display 技術の進展に寄与されることを期待します。

IDW '00の概要紹介

岡部 正博 (フェムト秒テクノロジー研究機構)

第7回ディスプレイ国際ワークショップ (The Seventh International Display Workshops : IDW '00) が、映像情報メディア学会とSID (The Society for Information Display) 学会との共催により、2000年11月29日から12月1日までの3日間、神戸国際会議場で開催されました。会議には海外からの20カ国、379名と国内からの750名の合わせて1,129名の参加者があり、発表論文数は、基調講演2件、招待講演2件を含めて、口頭発表203件、ポスターセッション99件、総計302件で、従来よりも規模の大きな会議になりました。また今回から共催学会の一つが、SID日本支部からSID本部に変わったことから、運営面においても海外委員の活動範囲が拡大するなど、名実ともに真の国際会議になったという思いが致します。



M.Okabe

会議冒頭の、御子柴茂生 IDW '00 組織委員長の開催挨拶、SID 会長 A. Silzars 氏の挨拶に引き続き、2件の基調講演が行われました。最初の基調講演は、前SID会長のA.C. Lowe氏によるもので、急速な発展を遂げているディスプレイについて、画面の解像力、信号の周波数帯域、消費電力、等の互いに関連しあう技術課題が摘出され、解決の方向性が示唆されました。ついで、東芝の菅正雄モバイルAVネットワーク事業部長により、インターネットの進展を支えていくデバイスとして、モバイル性のあるAudio-Visual (Video)機器を位置付け、将来のネットワーク戦略についての考えが示されました。

会議の2日目の夜には、ワインの残り香が僅かに漂う中でのイブニングセッションが設けられ、2件の招待講演が行われました。

1件はアジア地域からの代表として、香港科技大のH.S. Kwok教授にSiマイクロディスプレイに関する開発の現状と将来についての講演を頂きました。またThomson Plasma(フランス)のJ. Deschamps氏からは、PDP技術が現在の高い技術レベルに到達しているのは世界中の多くの研究者の協力があってのことなど、長い期間開発に携わってきた氏から経験に裏打ちされたお話を聞くことができました。

IDWは、技術分野でそれぞれの特長を持つ複数(今回は10件)のワークショップが、独自性を持ちながら互いに協力・補間して、ディスプレイ技術の広い範囲をカバーし、かつ深く掘り下げた議論も可能になるようにと考えています。

口頭発表には、全会場とも液晶プロジェクトが用意され、各講演者は持ち込んだ自分のノートパソコンを使用して発表できるようになりました。ディスプレイの学会にふさわしく、レベルの高い画面構成によるプレゼンテーションも多くなり、今後もこの傾向は強まっていくものと思われます。ポスター論文も内容の優れたものが多く、セッション時間が過ぎても発表者との間で議論が続いているケースが多く見られました。今年も例年通り、優れたポスター発表に対して「IDW '00 Outstanding Poster Paper Award」の選考がなされ、11件の論文が選ばれて、会議最終日のオーサーインタビューの後に表彰式が行われました。

IDW '00は発表論文の数と質、参加者数、参加国数といずれの点においても、ディスプレイ技術の重要な国際会議として十分な資格を有するようになってきました。次回は、3年毎にアジア地域で開催されるAsia Displayと共同で、10月16日から19日の4日間、名古屋国際会議場にて開催される予定です。今後ともIDWへのSID日本支部の会員諸氏のご支援と積極的な寄与・参加をお願いして、IDW '00の概要報告とします。

AD/IDW '01について

苗村 省平 (メルクジャパン)

21世紀幕開けのIDWは、IDRCすなわちAsia Displayと一体となった会議として開催されます。愛称をAsia Display / IDW '01といいいます。略して、AD / IDW '01です。

会期も今年は4日間です。10月16日から19日まで、名古屋国際会議場での開催です。

21世紀のディスプレイはどのように発展していくのでしょうか。20世紀の液晶を例に出すまでもなく、有機材料の科学技術がひとつのキーとなるかもしれません。昨年は導電性ポリマーの発明という業績がノーベル化学賞の対象に選ばれて、ディスプレイ・コミュニティにおいても話題となりました。受賞者のひとり、特に有機ELへの応用に貢献されているカリフォルニア大サンタバーバラ校のAlan Heeger教授を、AD / IDW '01の基調講演に呼び出す予定です。

Asia Displayと一体となったAD / IDW '01は会期が長いだけでなく、会議のスコープも拡張されます。従来のIDWを構成するワークショップに加えて、いくつかのトピカルセッションが設けられます。いまのところ下記の13の分野での講演・討議が計画されています。

Workshops:

LC Science and Technologies



S. Naemura

Active Matrix Displays
FPD Materials and Components
CRTs
Plasma Displays
EL Displays, LEDs and Phosphors
Field Emission Display
Large-Area and Projection Displays, and Their Components
3D/Hyper-Realistic Displays and Systems

Topical Sessions:

Organic EL Displays
Hardcopy and Color Science
Display Electronics
Applied Vision and Human Factors

IDWは映像情報メディア学会とSIDが共催する、ディスプレイの国際会議です。支部長挨拶にも書きましたように、SID日本支部としても最大限の支援をしたいと考えています。会員の皆様のご協力をお願いします。そしてあなた自身も、世界の約20ヶ国・地域から集まる1000名を超えるディスプレイ研究者・技術者の輪の中に入って、論文発表、討議をおこない、交流を深めてください。

論文投稿の申込み締切りは、5月31日です。会員割引での事前登録締切りは、9月14日です。10月には、会員全員で名古屋に集まりましょう。

学生会員旅費支援制度の適用者

適用学会 6th ASID in Xi'an (2000. 10. 18~20)

適用者

1. 氏 名: 本白 浩行

所 属: 電気通信大学

論文名: Generation Mechanism of Various Moire Fringe Patterns in High Resolution CRT Monitors

2. 氏 名: 豊岡 健太郎

所 属: 東北大学

論文名: The Three-Dimensional Display Using a Field-Sequential Light Direction Control of the Back-Light

3. 氏 名: 石山 誠

所 属: 八戸工業大学

論文名: Geometrical Effect of Microgroove Surface on Alignment of Liquid Crystal Molecules

4. 氏 名: 中島 宏佳

所 属: 静岡大学

論文名: Luminescent Properties of $\text{SrGa}_2\text{Si}_4\text{:Eu}$ Thin Films Deposited by Multi-Source Deposition

5. 氏 名: 山下 智生

所 属: 山口東京理科大学

論文名: Optical Logic Gate and Display Device Using Double Layered Half-V Shaped FLC-D-Cells

6. 氏 名: 吉川 嘉哲

所 属: 山口東京理科大学

論文名: A Polarizerless Reflective GH-LCD Exhibiting Good Legibility Using Nanomaterial Doped NLC Aligned Homeotropically without Rubbing



SID日本支部2001年度役員 (OFFICERS 2001)

支部長	Chairperson
苗村 省平	Shohei NAEMURA
副支部長	Vice Chairperson
下平 美文	Yoshifumi SHIMODAIRA
庶務幹事	Secretary
奥村 藤男	Fujio OKUMURA
会計幹事	Treasurer
土屋 讓	Yuzuru TSUCHIYA
庶務幹事補佐	Secretary-elect
長谷川雅樹	Masaki HASEGAWA
会計幹事補佐	Treasurer-elect
金子 好之	Yoshiyuki KANEKO

「2000年度SID受賞者の声」訂正



N. Ibaraki

ニュースレター第15号の「2000年度 SID 受賞者の声」で写真に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

Special Recognition Award
茨木 伸樹 (東芝)

For development of amorphous- and polycrystalline-Si TFT materials, device processing, array structures, and TFT-LCDs

1981年にアモルファス・シリコン薄膜トランジスタ(a-Si TFT)に魅せられて首を突っ込み、大型液晶ディスプレイを作りたいと、わき目も振らず開発一筋で過ごしてきました。1995年からは、ポリシリコン(poly-Si) TFT開発にも着手しました。この19年間で、社内外の多くの方々のご指導とご協力を仰ぎ、みんなで作り上げてきた成果の一つ一つが今回の受賞につながったものと考えております。この場をお借りして、あらためて関係各位の皆様に感謝したいとともに、これからの液晶ディスプレイの益々の発展に尽力したいと思います。

SID日本支部元支部長 鈴木忠二氏の死を悼む

毎年開催される春のSID、秋のIDRCなどSID関連の国際会議は勿論、つい先達て神戸国際会議場で開催されたIDW '00にも、あんなに元気でご出席、ご活躍されていた鈴木忠二先生が2000年12月11日、急逝されました(享年68歳)。SID関係者をはじめディスプレイコミュニティの一同、驚きと悲しみの中からまだ抜け出せていません。

鈴木先生は、1975年のSID日本支部を故三戸左内先生とお二人で創設されたと言っても過言ではないでしょう。先生からは初代支部長の故三戸左内先生と共に、その運営にご苦労されたことをよくお聞きしました。「支部の予算がなくてね、春のSID報告会、評議委員会、総会・・・など、会議は会社のご好意によりシャープの市ヶ谷ビルのホール、会議室を借りてやりくりしたんだよ。SID報告会だけは今でも続いているんだよ。」その後、1984-85年副支部長、1986-88年支部長、1995-96年SID Asia Region 副会長を歴任されました。副会長のときには、特にJapan DisplayをAsia Displayと変身させてSIDアジア地区の発展を期すことに大変努力されました。このように、鈴木先生は、今日のSID日本支部の隆盛とSIDアジア地区の発展に大きく寄与されました。

鈴木先生は、シャープ(株)にご在職中は、薄膜ELディスプレイの研究に従事され、特にELパネルの駆動方式やメモリー型ELの研究では顕著な業績をあげられ、1983年SID Special Recognition Awardを受賞されました。1989年シャープを退任された後、奈良工業高等専門学校教授として、また、1996年からは国際基盤材料研究所、(株)インタフェースの常務と



C. Suzuki

して勤務され、ディスプレイ技術・業界発展に多大な貢献をなされ、1993年SID Fellow、1996年SID President Citation Award、1997年SID Lewis and Beatrice Winner Awardを受賞されました。

鈴木先生のお力により誕生したSID日本支部は、昨年創設25周年を迎えましたが、私たちは鈴木先生からますますご指導を仰ぐことが多くなっているとき、鈴木先生を失い、ご意見を伺えなくなったことは大変残念なことです。ご冥福をお祈りいたします。

松浦 昌孝 (シャープ)

学生会員旅費支援制度の改定について

2000年12月21日に開催された日本支部総会で「SID日本支部学生会員への成果発表旅費支援制度」の対象学会・会議名が次のように改定されました。

改定前

- 2) 対象学会・会議名: SID及びSID日本支部が主催・共催する下記学会: ASID・IDW・IDRC、及び下記選考委員会で必要と認めた学会・会議。



改定後

- 2) 対象学会・会議名: SID及びSID日本支部が主催・共催する申請者の居住国以外で開催される下記学会: ASID・IDRC、及び下記選考委員会で必要と認めた学会・会議。

会計幹事からのお知らせ

会員状況 (2000年12月28日現在)

	会員数	維持会員
支部支払い	427人	10社
本部支払い	404人	2社
合計	831人	12社

2000年度は過去最高の会員数を記録しました。会員皆様方のご支援の賜物です。このたび、会計の任務を無事に終わられましたことに厚くお礼を申し上げます。

(前会計幹事 奥田 荘一郎)

13号〜本号までのニュースレターを担当していた土屋です。このたび、奥田さんの後を引き継ぐことになりました。よろしくお願いいたします。

(会計幹事 土屋 譲)